

『予知性と審美性を高めるための Implant Micro Plastic Surgery』



医療法人 社団洛歯会 中田歯科クリニック
中田光太郎

インプラント修復治療において長期の予知性を考える上で、生物学的な観点からはインプラント周囲に構築した組織をいかに経年的に保存・維持できるか、また外界からの細菌やプラークの侵入を阻止できるバリア機能を長期に機能させることができるか、この2点が重要である。そこにはインプラント周囲への健康な軟組織の獲得が多大な役割を果たす。

また審美的な観点からは審美領域のインプラント治療においては、硬組織のみならず、軟組織を含めた審美性の達成が求められ、治療のマネジメント上、軟組織量、形態をいかにコントロールするかが非常に重要である。

そこで低侵襲に、精緻な処置が可能であるマイクロサージェリーを用いて、歯周形成外科の手法を応用しインプラント周囲組織を様々なバリエーションでマネジメントすることで、必要な部分を確実に造成し、予知性の高い処置が可能であるのでここにご紹介したい。